

## 超高齢社会と医療のあり方を考える

福岡市医師会 会長インタビュー



今回はこの人

## 【お話をうかがった先生】

一般社団法人  
福岡市医師会 会長えがしら けいすけ  
江頭 啓介 先生

「医療従事者も積極的に介護従事者と接点を持つべきですし、それぞれの仕事を通じて“より良い地域社会づくり”をする、という志をもって連携、融和に取り組んでいくべきだと思います」

世界に類例のないスピードで高齢化が進んでいる日本。誰もが長く、楽しく、生きがいを持って地域で暮らすためにも、高齢者医療と介護の連携は極めて重要な課題です。そこで今回は、「超高齢社会と医療のあり方」について、福岡市医師会会長 江頭啓介先生にお話を聞きました。

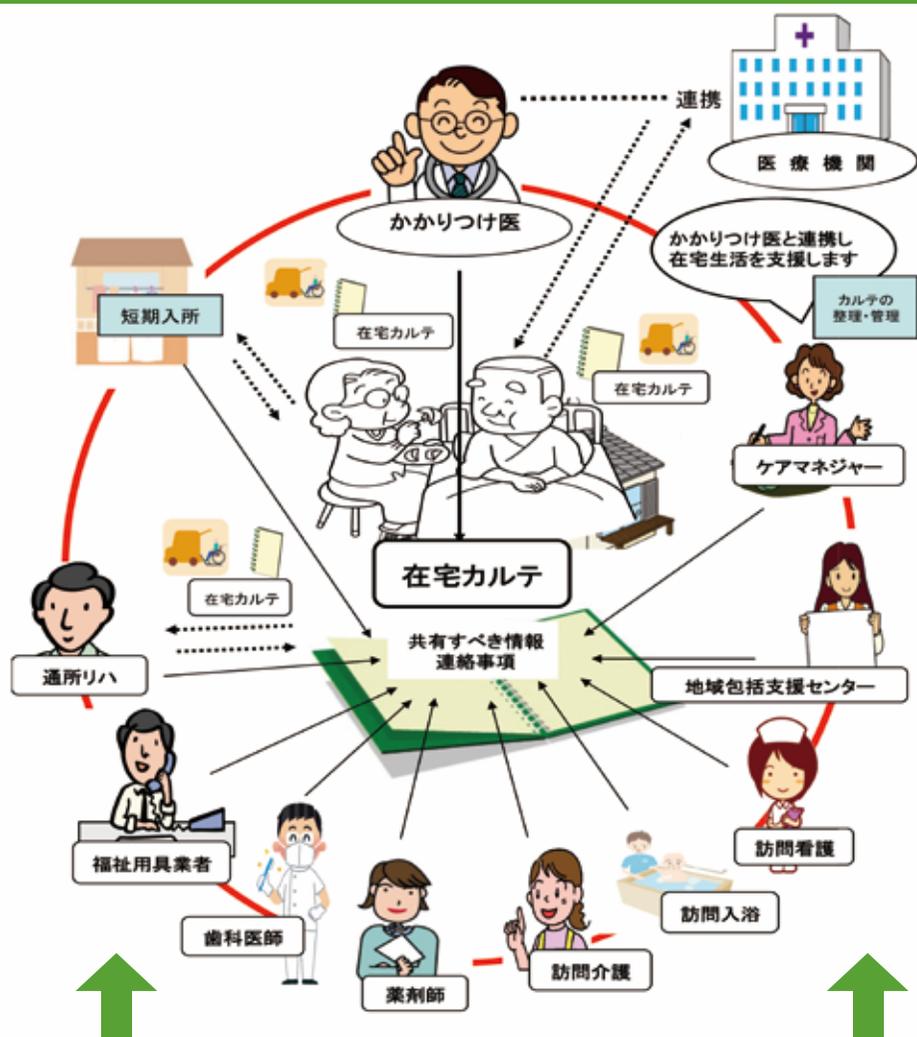
## 在宅医療需要の増加

最新のデータによれば、わが国の65歳以上の高齢化率は現時点(平成26年7月)でも約25%。つまり4人に1人が高齢者という状況にあります。また、2020年には約30%、2025年には約33%と、今後は更に急速且つ高度な高齢化が進むと予測されており、医療の現場においてもこうした現状に基づいた、つまり高齢化社会にマッチした医療提供体制が問われています。

厚生労働省が定めた『在宅医療・介護あんしん2012』でも、これまでのような施設中心の医療や介護から「住み慣れた生活の場で必要な医療や介護サービスが受けられ、安心して自分らしい生活ができる社会への転換」という、国を挙げた明確な指針が打ち出されました。医療においては特に在宅医療の充実を図る必要性が高まっていて、一昨年度の診療報酬・介護報酬同時改定でも、在宅医療の評価が重点化されました。

こうした流れを受けて福岡市医師会では、より患者さんに近い立場で在宅診療を推進していく「かかりつけ医」機能の強化に注力します。

## 福岡市医師会方式『在宅カルテ』活用イメージ



「在宅カルテ」の活用を通して患者の医療・介護情報を多職種が共有し、連携することで在宅療養生活を支えます。

福岡市医師会方式『在宅カルテ』(事業所向け)

入手先URL <http://www.city.fukuoka.med.or.jp/zaitakuarute/zaitakuarute.html>

取材協力

## 一般社団法人 福岡市医師会

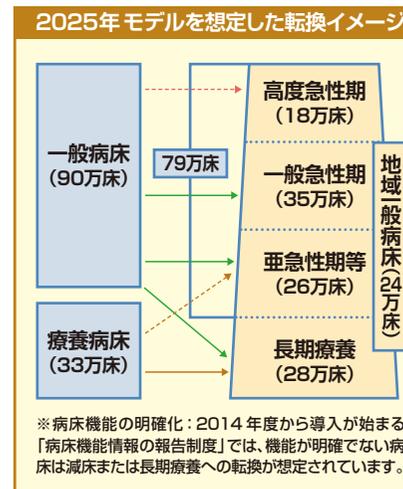
住所 〒814-0001 福岡市早良区百道浜1丁目6番9号

代表番号 ☎092-852-1500

診療に関する電話相談窓口 ☎092-852-1539 [毎週月・水・金曜日午後3時～午後5時(休日・お盆・年末年始を除く)]

従来型の医療でのいわゆる「主治医」とは、あくまで「けがや病気を「治す」医師」ですが、私たちが目指す「かかりつけ医」とは、「患者さんの家族構成、体質や病歴、生活状況までをしっかり把握して、健康面でのアドバイスなども行える、地域の「一員」としての「ホームドクター」です。

病气やけがなどの急性期医療のみが接点だと、どうしても「過性のお付き合い」になってしまうがちです。何かあればすぐに相談できる「かかりつけ医」を持つことで、無駄な検査などのリスクも減らせ、万一の際の高度な専門的医療機関へのアプローチもスムーズにでき、医療費や体の負担の低減にも繋がります。「かかりつけ医」の紹介状がないと、



初診料とは別に特別の料金が必要となる病院もありますので、ぜひ「かかりつけ医」をお持ちになることをお勧めします。



### 在宅医療・介護を支える「地域包括ケアシステム」

また、在宅医療・介護を考える上で不可欠なのが「地域包括ケアシステム」です。これは、誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援の5つの機能と役割を一体的に提供するシステムですが、その中でも在宅医療は重要な位置づけとなっています。現場感覚としてもコーディネート機能を期待されていると思えますが、それにはまず何よりお互いの仕事に対する深い理解が必要です。たとえば医療と介護に限れば、われわれ医療側からは介護のさらに踏み込んだ理解が必要で、介護関係者側からは、協同で仕事を行う、ネットワークで機能する意識を持っていただくことが重要かと思えます。

とは言え、現実問題としてはお互いに話し合いの時間を作ることも中々難しい状態もあるので、福岡市医師会では現在患者さんのご自宅に常時設置して関係者が自由に書き

### 福岡市医師会制作の『在宅カルテ』活用を

『在宅カルテ』は、より質の高い包括的な在宅医療を提供するために、福岡市医師会が独自に作成した連携機能強化ツールです(図解参照)。ケアマネジャーなど介護に関わる方が活用したいと思われた場合は、訪問診療を行っている「かかりつけ医」があればまずご相談ください。『在宅カルテ』の専用紙は福岡市医師会のホームページ「医療・介護関係者の方へ」からいつでもダウンロードできますので、内容詳細や記入方法など一度目を通していただくと良いかと思えます。

医療と介護の協働、融合、また各種在宅支援サービスとの一元的連携を目指して、福岡市医師会ではこの他にも会員を対象にした認知症等の研究会や各種講演会を主宰し、啓発活動を行っています。また、病气・医療・かかりつけ医のご紹介等に関するご相談窓口も設置していますので、ぜひご利用ください。



込み・閲覧できる福岡市医師会方式の『在宅カルテ』というツールを導入しています。

# 地域で働く・仲間とともに働く

～訪問介護の現場から～



大野城市仲畑にある『アスパルケアセンター大野城』事業所にて

「iPadカバーは自前で好きなものを買いました」と岡本さん。子育て中の河村さんは「子どもが熱を出した時など、他のスタッフが助けてくれるので、安心して働けます!」



施設介護と違い、1日に何軒ものご家庭におもむく訪問介護の仕事では、一対一のふれあいでもやりがいを感じる反面、情報共有の難しさや書類仕事の多さなどが悩みの種。今回は、こうした問題の解決にiPadを活かすアスパルの取り組みをご紹介します!

河村さん(2014年入社)

## 介護の仕事をはじめたきっかけ

もともと人のお世話が好きでした。自分で働く時間を調整できる訪問介護に興味があり、ヘルパーの資格を取りました。

## 実際に仕事をしてみてもいいですか

資格は取得したものの、実技はほぼ初体験で最初は緊張して...直接お客様の体に触れる仕事ですから。でも、この頃ようやく慣れてきましたよ。

## 最近、一番嬉しかったこと

やっぱり「ありがとう」と言われた瞬間ですね。そのためにも「ミスをしてはいけない」「やるべきことをやる」の2点を心がけています。

## 逆に、辛かったこと

ご家族の思いとお客様ご本人の思いが食い違っていたケースがあり、板ばさみになりました。でも今は、双方の考えを理解して改善方向に向かっています。

## iPadがあると仕事に便利ですか

地図検索で行先確認、スケジュール共有、LINEでの情報のやり取りなど、本当に便利。お料理サイトも参考にしています(笑)。

## 介護職を目指す方にメッセージを

習うより慣れろ、で現場体験が大事!ぜひアルバイトやボランティアから始めてみてください。きついやりがいや楽しさを見つければ大丈夫。

岡本さん(2012年入社)

## 介護の仕事をはじめたきっかけ

病気がちだった両親をみてあげたいと思い、若い頃から特別養護老人ホーム等で働いてきました。

## 施設介護と在宅介護は違いますか

施設介護は他のスタッフと協力して行いますが、在宅介護では基本的にひとりでお宅に行ってケアをするので、自分で考え、工夫する点が違いますね。

## 最近、一番嬉しかったこと

最近というか、誠意を持ってお世話して「来てもらってよかった」「待ち遠しかった」といっていただくこと、これも嬉しいですね。

## 逆に、辛かったこと

心の病のある方に誤解され拒否されたことがあります。でも、みんなと対処方法を考えることで、解決することができました。

## iPadを持つようになった変化

事務所に戻ってパソコンやファイルを開かなくても、何か起きた時その場で対処できるので、緊急時など心強いですね。

## 介護職を目指す方にメッセージを

わからないことは遠慮なくまわりに相談してみてください。経験を積み重ねて自分にもお客様にもしっかり向き合えるようになりたいですね。

## iPad導入の狙いと成果

国が進めている介護の多職種連携、とりわけ医療と介護の連携を見据えて、他に先駆けてなるべく早期に情報共有のベースづくりをしようと考え、全スタッフにiPadを支給しています。新人スタッフへのバックアップや、情報共有(※)にも非常に有効ですね。導入後は仕事の時間効率も上がり、確実な業務の申し送りが可能となり、結果的にスタッフの労力削減とケアの質の向上に役立っています。  
※万一紛失しても、遠隔操作でデータ消去が可能



株式会社アスパル 事業本部/部長 後藤 大祐氏  
ごとう だいすけ  
介護福祉士/介護支援専門員



◀車で移動する前に地図検索で訪問先までのルートを確認。これがあればどこへ行くにもカーナビ要らずです!



▶iPad最大の利点は、写真や動画がその場で送受信できる点!訪問中のトラブルにもすぐに対応が可能。

## ケアスタッフ/ホームヘルパー2級

おかもと みちこ 岡本 道子さん

家の掃除でリフレッシュしています。実は16歳まで生きた愛犬のシーズーが天に召されたばかりで、ぼ～っとしていると余計に気持ちが落ち込みそうなので...今は忙しく仕事に追われていた方が、逆に気が晴れますね。



20代後半から特別養護老人ホームの介護職員として長年キャリアを積んできた岡本さん。仕事と主婦業を立派に両立させつつ、病気がちだったご両親を最期まで看取られたとのこと、脱帽です!

## ケアスタッフ/ホームヘルパー2級

かわむら 河村 めぐみさん

休みの日に小4の長女、小1の長男と一緒に川や海で遊ぶのが楽しみです。自然の中で体を動かすことのびのびできますね。家でも、お庭でキャンプごっこやお店屋さんごっこをして遊ぶのがこの夏の我が家のブームです!



「入社4ヶ月、ようやく介護の仕事に慣れてきました!」と語る河村さん。ハキハキ明るい話し方、女性らしいやさしく豊かな表情に、お客様からの評判もどんどん上昇しそうです!

取材協力 株式会社 アスパル

〒810-0022 福岡市中央区薬院1丁目11番7号 Sビル2 6F-2号室  
TEL 092-724-5235 FAX 092-724-5236

在宅介護 訪問介護サービス/居宅介護支援サービス  
障がい福祉サービス/介護保険外サービス

http://www.aspal.jp アスパル 検索